

公開勉強会

アーサー・ビナードさんが聞く、 生き物の未来はどうなるのか？

合成生物学の狙いと問題点

（「経済成長、利便性、軍事利用」と「安全性、多様性、倫理面」）

11月10日（土）

●開場・受付 13:00

●開始～終了 13:30～17:30



生命科学の展開は著しく、かんたんに遺伝子配置が変えられる新たなゲノム編集技術、子どもを選ぶことができる生殖技術、臓器作成なども展望に入った iPS 細胞や ES 細胞による再生医療、ウイルスレベルでの新たな生物を作り出す合成生物学、好ましくない種の廃絶を可能にする遺伝子ドライブなど、さまざまなイノベーションの可能性が見えてきています。

新たな科学技術の開発により治療が困難だった「難病」の治療、安全な食糧増産の可能性などが高まり、大いに期待が寄せられています。しかし、その一方では、こうした科学技術の開発・応用により、生態系の破壊、デザイナーベビー、新たな差別、軍事・テロ利用といった負の可能性への懸念も広がってきています。

科学技術を的確に理解するには、専門的な知識を学ぶ必要があります。また、そのような科学技術が社会に広がるのがどのような帰結をもたらすのかを理解し、予想される変化が人々の生活にどのような意味をもつのかをともに考える必要もあります。

この公開勉強会では、市民と科学者の対話を通じて、新たな生命科学に対する理解を深め、望ましい科学技術と社会の関わりについてともに考えていくことを目指しています。

講師とテーマ

講師 アーサー・ビナードさん（ミシガン州生まれの詩人）
生き物の未来はどうなる（アメリカの合成生物学の状況から）
阿久津英憲さん（再生医療センター生殖医療学研究部部長）
幹細胞研究の現状と倫理的な観点
天笠啓祐さん（ジャーナリスト）
合成生物学の規制

司会 島菌進さん（上智大学大学院実践宗教学研究科教授）

参加費 1000 円

主催 ゲノム問題検討会議

問合せ 神野玲子 Email jreikochan@yahoo.co.jp 携帯 090-2669-0413

場所

川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）大会議室

JR 南武線武蔵中原駅前 川崎市中原区上小田中 6-22-5

<http://www.sfc-kawasaki.jp/contents/hp0007/index00030000.html>